



## 『ROAD TO 2020～組織委員会／スポーツマネジャーからのメッセージ～』

### 「2019 を迎えて」

2019 年が走り出しました。

新年早々、ジュニア男子エペのワールドカップが開催され、続いて今月下旬にはシニア男子フルーレの高円宮杯ワールドカップが開催されました。この高円宮杯、来シーズン（今年の2019年12月13日から15日に幕張メッセで開催）はオリンピックのテストイベントとなります。オリンピックではエペ・サーブル・フルーレの3種目とも同じフォーマットで行われるため、テストイベントの実施を認められたのは1種目のみでした。

日本国内で開催されている、FIE公認のシニアカテゴリーの国際大会は、この男子フルーレの高円宮杯のみということで、この大会がテストイベントとして決定されました。今年の私の目標は、シンプルにこの大会の成功です。

テストイベントはあくまでもテストです。オリンピック成功のために失敗ありきで色々なチャレンジに臨めます。

しかしこの高円宮杯は、出場する選手にとってはまさにオリンピック出場を決めるランキングレースの1つであり、競技運営において失敗することは許されません。また、高円宮杯は、これまでの大会運営者が築き上げてきた思い入れのある大会でもあります。よってこれまでと変わらず、歴史が守られ、感動が生まれる大会でなくてはなりません。

2019年12月は、東京ではなく千葉で行われます。また、試合環境の整った体育館ではなく、イベントホールで開催されます。そしてこれまでの大会従事者に加え、会長率いるイノベーションチーム、さらにはオリンピック関係者が数多く携わります。

成功の鍵は、大会開催の責任を持つ日本フェンシング協会と、大会運営を担う大会実行委員会と、太田会長率いるイノベーションチームと、オリンピックに向けたテストを組織委員会とが、残りの10ヶ月でどれだけ連携・尊重しながら綿密な計画準備をして、当日を迎えることができるか。

課題とチャレンジは、試合開始の直前まであり続けると思いますが、他種目の選手・関係者の皆さん、観客の皆さん、従事される全ての方々が、少しでもオリンピックイメージの切れ端を感じ取っていただければと思います。

さて、日本フェンシング協会のホームページを通じて、オリンピックに武器検査員や試合運営者（DT）として従事いただく候補者を公募いたしました。全国からご応募いただきました皆さまに、この場をお借りして心から御礼を申し上げます。また、組織委員会が公募した大会ボランティアにも、多数の方々がフェンシング会場への配置を希望してくださいました。

皆さまとの新たな出会いを大切に、この一年を過ごせたらと思います。





